

世田谷村日記

石山修武

時過迄。二十二時半世田谷村に戻る。

七月十四日

朝、電話その他。十一時半研究室。十二時人事小委員会。十三時半迄。佐藤先生より良いアドバイスをいただく。有難い。北京の件で菅原氏に連絡。小野寺氏を紹介される。

七月十二日

九時前大学へ。今日は李祖原とテンポラリー部の打合わせをしなくては。

十二時レクチャー了。原則的に休講も無く何とか乗り切った。が、若い学年へのレクチャーは対応の仕方を考えぬと仲々難しいのが実感だ。小休して李祖原を待つ。午後の全てを李祖原と北京Pの打合わせに費やす。夕方、ひろしまハウス・カンボジアの打合わせ。唐桑町の佐藤和則町長来室。十九時頃より李祖原、佐藤町長を含め、近江屋で打合わせ。色んな件が乱れ飛んだが、なんとか把握した積り。二十一時頃散会。佐藤和則町長と新宿へ。色んな話をした。○時半迄。久しぶりにTAXIで世田谷村に戻る。一時過になった。一九八八年から六年間続けた唐桑臨海劇場の、佐藤町長は形として残っている大事な歴史つまり人材そのものだから、大事にしなくては。

七月十三日

早朝、李祖原からの電話で目覚める。昨夜、ロンドンのMKと打合わせをした結果を話したいという。九時過、李が宿舎にしている早稲田のドミトリーに行く。十一時半迄打合わせ。北京Pは急速な展開を見せている。李は打合わせ終了後成田空港へ直行。私は観音寺に寄って、大学内のコーヒーショップで一服。少し頭を冷やさないと。

午後研究室に戻り、北京、プノンペン計画他打合わせ。二十一

七月十五日

十時大学。大学院レクチャー準備。今日が前期の最終講義。十二時修了。院の講義もとどろげず休み無しで乗り切った。昼食のサンドイッチをとりながら、ひろしまハウス打合わせ。そのまま続きでMOゼミ。十九時過まで。室内の長井さんと話し、秋からいから連載を再開してみようかという事になる。私のウェブサイトの読者は決して少なくはないが、活字も大切なのは知っている。それに、室内は私には特別な雑誌だから。山本夏彦に会わなくなつて何年になるのだろう。あの人物の不在は時間の密度を薄くした。